

筑波大学における 図書館員等の養成・教育について

情報学群 知識情報・図書館学類
大学院 図書館情報メディア研究科

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科・准教授 阪口哲男

沿革(4年制大学&大学院)

- 1979年: 図書館情報大学開学(1980年より学生受入れ)
 - 図書館情報学部図書館情報学科: 120名
- 1984年: 大学院図書館情報学研究科設置
 - 図書館情報学専攻: 修士課程16名
- 2000年: 大学院情報メディア研究科設置
 - 情報メディア専攻: 博士前期課程37名、博士後期課程21名
- 2002年: 筑波大学と統合(2003年より学生受入れ)
 - 図書館情報専門学群: 150名
 - 大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻
- 2007年: 学群再編
 - 情報学群知識情報・図書館学類: 100名
- 現在に至る

(学部教育)知識情報・図書館学類

- 学群改組に伴い2007年度より学生受入れ
- 定員: 100名(+3年次編入学10名)
- 2年次までは共通、3年次より主専攻毎
 - 知識科学主専攻
 - 知識情報システム主専攻
 - 情報経営・図書館主専攻

知識情報・図書館学類の科目分類

- 基礎科目(1~2年): 教養、外国語、体育
- 専門基礎科目(1~2年)
- 専門科目(3~4年): 3つの主専攻に集約
 - 知識科学: 人間(知識の本質、情報行動など)
 - 知識情報システム: 情報技術
 - 情報経営・図書館: 社会(制度、マネジメントなど)
- 注: 3つの科目分類は筑波大学共通
 - 3学期制: 1学期=10週
 - 1コマ75分、講義は1コマ10週で1単位

知識情報・図書館学類 – 関係資格

- 司書(公共図書館)
 - 学類の専門基礎科目と専門科目に対応付け
 - (別表参照)
 - 甲群: 14科目27単位
 - 乙群: 2科目4単位
 - 他学類生も一応履修可能
- 司書教諭(学校図書館)
 - 5科目10単位(別表参照)
 - 教員免許が必須(教職関連科目も要履修)

知識情報・図書館学類 – 科目例

- 大学図書館や専門図書館
 - 専門情報(医療情報論、特許情報論など)
 - 学術情報(学術メディア論、学術情報基盤論など)
 - 電子図書館(デジタルライブラリ)
- 情報技術とシステム
 - 演習により習得(必修)
 - プログラミング基礎(プログラミング演習I/II)
 - 書誌検索システム構築(知識情報演習I)
 - Webページ検索システム構築(知識情報演習III)
- インターンシップ(図書館などでの実習)

知識情報・図書館学類 – 進路例

- 進学(大学院): 図書館情報メディア研究科他
- 就職
 - シンクタンク、出版社、広告代理店、映画配給
 - IT企業、電機、通信、印刷、インターネット関連
 - 法人職員、サービス業、公務員、銀行
 - 図書館、書店
 - など
- 公務員採用試験受験者向け特別指導も実施

大学院 図書館情報メディア研究科

- 図書館情報メディア専攻(区分制博士課程)
 - － 博士前期課程(2年): 定員37名
 - 修士(図書館情報学, 情報学又は学術)
 - － 博士後期課程(3年): 定員21名
 - 博士(図書館情報学, 情報学又は学術)
 - － 3学期制(学類と同様)
 - － 図書館流通センター図書館経営寄附講座
 - 2006年度より設置
 - 博士前期課程「図書館経営管理コース」

大学院 – 分野と指導体制

- 4つの教育研究分野
 - 情報メディア社会
 - 情報メディアマネジメント
 - 情報メディアシステム
 - 情報メディア開発
- 複数研究指導教員体制
 - 博士前期課程 – 主1名、副1名
 - 博士後期課程 – 主1名、副2名(同分野と他分野)

大学院 – 目標など

- 研究科パンフレットより抜粋
 - 「情報メディアによって社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成する」
- 多様な学生の受入れ
 - 図書館情報メディア領域出身者
 - 他領域出身者
 - 社会人(企業や図書館等からの派遣を含む)

大学院 – 主な科目(大学図書館関連)

- 人的資源構成論
- 学術情報流通システム論
- ライブラリー・ガバナンス論
- 情報資源管理論
- コンテンツ流通基盤技術論
- ほか個々の要素を取り扱う授業を開設

大学院 – 図書館経営管理コース

- 公共図書館や中小規模大学図書館の経営管理、大規模大学図書館の部門管理を指向
 - 現職図書館員、社会人、大学院生など
- 7科目
 - 基礎科目: 図書館サービス論、出版・流通論、システム管理論
 - 専門科目: 公共サービス論、公共経営論、ライブラリー・ガバナンス論、図書館施設計画論
- 研究科よりコース修了認定
 - 科目履修＋実務経験(社会人)又は口頭試問(大学院生)

大学院 – 社会人の受入れ

- 現職図書館員を含む在職社会人
- 平日夜間時間割の設定
 - 7, 8時限目(18:20～21:00)
 - 昼間時間割は1～6時限目(8:40～18:00)
- 土曜日の授業開設
 - 平日昼間時間割と同じ(集中での開設も)
- 東京サテライト(大塚地区)の開設
 - TV会議システムによるつくば(春日地区)との同時授業も実施

研修・公開講座など

- 大学図書館職員長期研修
 - － 昭和44年(文部省と図書館短大の共催)より毎年実施
 - － 常勤図書館職員を対象
 - － 主催: 筑波大学
- 新任図書館長研修
 - － 新たに就任した公立の図書館長を対象
 - － 主催: 文部科学省, 筑波大学, 国立教育政策研究所, 日本図書館協会
- 公開講座(研究科主催)
 - － 「『これからの図書館像』を実現するために」
 - － 図書館(公共図書館)関係者対象

問題と今後

- 知識情報・図書館学類 – 司書養成科目改訂
 - 平成24年度より司書養成科目改訂、増加
 - 平成23年中に課程認定申請が必要
 - 現在教育課程担当者らにより対応策検討中(平成22年度中に対応方針を決める予定)
- 図書館情報メディア研究科 – 社会人、留学生対応
 - 「図書館情報学キャリアアッププログラム」開設準備中(平成23年度より)
 - 東京サテライトを主に利用する学生への対応
 - 「図書館情報メディア学英語プログラム」開設準備中(平成23年度より、図書館情報学教育の世界拠点を目指す)

大学院 - 図書館情報学キャリアアップ プログラム

- 目的

- 知識・情報を分析, 加工, 表現, 伝達, 提供, 利用するための高度な知識・技術を身につけ, 自らの業務の課題を見出して解決策を提案することのできる, 実践的研究を行う高度専門職業人の育成

- 従来の社会人向け対応の見直し・強化策

- 東京とつくばに分散→東京に集約
- 普段接する教員が少ない(教員研究室: つくば)→プログラム担当教員による日常的サポート(研究指導教員とは別)
- 平日7、8時限目と土曜授業
- 講義課目の厳選、セミナーや研究方法論など研究指導関係科目重視

その他 – 授業での図書館員の起用

- 総合科目(教養科目)「知の探検法」
 - 知識情報・図書館学類開設(他学類生が履修)
 - 図書館やインターネット上の各種データベースなどの情報探索ツールの使い方の習得
 - 2単位(2コマ10週)中4週を附属図書館員が担当(6週は知識情報・図書館学類担当教員)
 - 附属図書館員を正式な非常勤講師に任命

参考

- 各組織等ホームページ(パンフレットPDF有)
 - 学類: <http://klis.tsukuba.ac.jp/>
 - 研究科: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/>
 - 大学図書館職員長期研修(附属図書館):
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/>
 - 公開講座(現職教育講座):
<http://www.tsukuba.ac.jp/community/extension/education.html>

大学において修得すべき図書館に関する科目

区分	図書館法施行規則に定める科目		本学における開設授業科目			備考
	科目	単位数	授業科目	単位数	開設学群・学類等	
甲群 必修 12科目 ・ 18単位	生涯学習概論	1	生涯学習と図書館	2	知識情報・図書館学類	
	図書館概論	2	図書館論	2		
	図書館経営論	1	経営・組織論	2		
	図書館サービス論	2	情報サービス経営論	2		
	情報サービス概説	2	情報探索論 情報サービス構成論	2 2		いずれか 1科目 選択
	レファレンスサービス演習	1	知識情報演習Ⅱ	2		
	情報検索演習	1	情報基礎実習	1		
	図書館資料論	2	コレクションとアクセス	2		
	専門資料論	1	学術メディア論	2		
	資料組織概説	2	知識資源組織化論	2		
	資料組織演習	2	知識情報演習Ⅰ	2		
	児童サービス論	1	メディア教育と発達	2		
乙群 選択 2科目 ・ 2単位 以上	図書及び図書館史	1	図書館文化史論	2		
	資料特論	1	日本図書館学 中国図書館学 デジタルドキュメント	2 2 2	いずれか 1科目 選択	
	コミュニケーション論	1	知識形成論	2		
	情報機器論	1	情報基礎	2		
	図書館特論	1	デジタルライブラリ インターンシップ	2 2	いずれか 1科目 選択	

(備考) 1 図書館に関する科目として修得した単位は、各学群の履修細則の定めるところにより、卒業要件の単位として参入できます。

2 所定の単位を修得した者には、図書館に関する科目の「単位修得証明書」を発行します。卒業後に学務課成績管理・システム担当（大学本部棟2階）に申し込んでください。

司書資格の証明を求められた場合には、「単位修得証明書」と「卒業証明書」を提出してください。

大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目		本学における開設授業科目		
科目	単位数	授業科目	単位数	開設学群・学類等
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	知識情報・図書館学類
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	

(備考)

司書教諭講習に相当する科目として修得した単位は、各学群の履修細則の定めるところにより、卒業要件の単位として算入できます。

司書教諭の資格を取得するためには、司書教諭講習に相当する科目を全て修得した後に、学校図書館法第5条第3項の規定に基づく「学校図書館司書教諭講習」に、書類参加の手続きが必要です。手続方法については、掲示でお知らせします。

企画経営能力を有する開発者など、多様な視点を持った人材が必要とされており、実際にそうした人材を輩出しています。また、知識情報・図書館学類では、キャリア・コンサルタントによる個人指導などのサポートも行っています。

■資格取得と採用試験に対するサポート

将来へのきっかけとして、大学在学中に資格取得を考えてみるのもいいでしょう。資格取得はスキルアップにもなりますし、自分への自信にもつながります。将来、どのような職に就いても、「知識」と「経験」はかならず力になります。

知識情報・図書館学類では司書資格、司書教諭資格、教員免許状が取得できます。司書教諭資格は、司書教諭科目を履修し教員免許状を取得することで取得できます。教員免許状は、中学校教諭一種免許状（社会・数学）と高等学校教諭一種免許状（公民・数学・情報）が取得できます。

また、自分の可能性を広げるため、TOEIC（Test of English for International Communication）やTOEFL（Test of English as a Foreign Language）、初級システムアドミニストレータ試験、基本情報技術者試験、経営学検定試験（初級）などの受験を勧めています。

なお、公務員採用試験受験者のため、独自の教養試験対策を行なっています。2008年度は、2年次の9月から4年次の6月にかけて、合計44回の模擬試験を隔週で実施しています。また、公務員採用試験の受験ステップに応じて、志望理由書の執筆、機関訪問の準備、2次試験の面接に向けたアドバイスなど、きめ細かなサポートを行なっています。



卒業生の主な進路



入学試験

研究環境

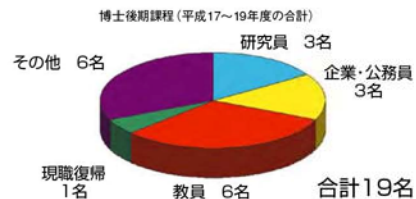
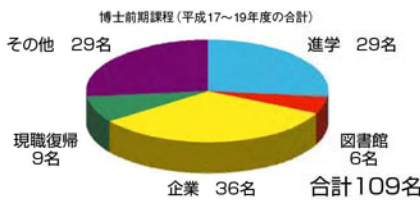
大学院生には個人用の机と、夜間・休日の図書館情報学図書館を始めとする建物への入室、コピー機などに使うICカードを貸与します。また、コンピュータアカウントを申請すれば、メールアドレス、Webページスペースなど、潤沢なコンピュータ資源が利用できます。



TAとRA

TA (Teaching Assistant) として学群や大学院の授業の補助を行う機会や、RA (Research Assistant) として教員との共同研究を行う機会もあります。平成20年度は、学群のTAとして、前期課程の院生のうち延べ44名、後期課程の院生のうち延べ5名が任用されました。RAとしては、後期課程の院生7名が任用されました。

修了生の進路



学会等の発表支援

大学院生が学会に出席して発表する際の参加費や旅費を研究科が支援する制度があります。平成20年度は延べ50人以上がこの制度を利用して学会発表を行いました。

学費と奨学金

入学時の経費 (平成21年度) は
 入学金 282,000円
 授業料 535,800円
 です。経済的理由により納付が困難で学業成績の優秀な者には、授業料の全額または半額を免除する制度があり、平成20年度においては、前期課程で20%の学生が、後期課程で7%の学生が授業料免除を受けています。

奨学金としては、独立行政法人日本学生支援機構の奨学制度が利用できます。平成20年度においては、前期課程で47%の学生が、後期課程で28%の学生が利用しています。なお、平成20年度は前期課程3名、後期課程2名が全額もしくは半額の返還免除となりました。この他に、地方公共団体、民間の育英団体の奨学金事業も多数あります。後期課程の大学院生には日本学術振興会の特別研究員の道もあります。

学生表彰

修士論文が優秀であった前期課程の学生や、優れた研究成果をあげた後期課程の学生は、研究科の学位記授与式において表彰されます。また、その研究成果が学外においても高い評価を得た大学院生が日本学生支援機構の第一種奨学金を利用している場合は、奨学金返還免除選考の対象者となります。

2009年度夏季 大学院説明会日程

会場	日程	時間
春日キャンパス	6月26日(金)	18:30~19:30
東京サテライト(茗荷谷)	6月27日(土)	13:30~15:00

入学試験は8月下旬と2月上旬に筑波大学春日キャンパスにて実施します。博士前期課程には、学群・学部におけるA(優)の割合が概ね70%以上の学生が受験できる推薦入学制度もあり、7月に選抜試験を行います。一般入学試験は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜のカテゴリに分かれています。

社会人として3年以上経過している(現職の必要はありません)か、あるいは勤務先からの派遣により志願する場合(勤務年数を問いません)は社会人特別選抜に該当します。外国人留学生の場合は、研究調査等を英語で記載し、口述試験を英語で受験することもできます。

定員は、博士前期課程は推薦入学が7名、一般、社会人、外国人留学生合わせて30名です。また博士後期課程は、一般、社会人、外国人留学生合わせて21名です。いずれも連携大学院の定員を含みます。なお、筑波大学大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了し、引き続き後期課程に進学する場合、検定料、入学金は不要です。

なお、学生募集要項は5月下旬に公表予定です。

2010年度入試日程(日は2009年4月から2010年2月)

課程	選抜	出願日	学力検査日
博士前期課程	推薦	6月22日(月)・23日(火)	7月6日(月)
	一般(8月)	7月21日(火)~23日(木)	8月18日(火)・19日(水)
	一般(2月)	1月5日(火)~7日(木)	2月1日(月)・2日(火)
博士後期課程	一般(8月)	7月21日(火)~23日(木)	8月20日(木)・21日(金)
	一般(2月)	1月5日(火)~7日(木)	2月2日(火)・3日(水)

入学資格

本研究科は、文系・理系といった区分を越えた新しい学問領域の開拓をめざしており、学際的でさまざまな領域の研究が行われています。そのようなことから、前期課程にあっては学群・学部段階での専門領域、後期課程にあっては修士段階での専門領域にこだわらず、多様な領域から幅広く受け入れます。分野・経歴・年齢・国籍を問わず、学ぶ意欲・研究意欲の高い人を募集しています。

前期課程にあっては大学を卒業した者と同等以上の学力、後期課程にあっては修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた場合にも出願資格が与えられます。この条件で志願する場合は事前に本研究科による出願資格審査を受ける必要があります。出願資格審査は書類審査のみで、費用は無料です。

選抜方法

前期課程の推薦入学試験は、所属長の推薦書のほかに研究計画(事前に希望する研究指導教員に連絡をとって作成したもの)等を提出し、口述試験を受ける必要があります。

前期課程の一般入学試験では、提出書類、TOEICあるいはTOEFLの得点を換算したものの、口述試験の結果を総合的に判定します。後期課程の選抜は提出書類と口述試験の結果を総合的に判定します。口述試験(前期課程は約30分、後期課程は約60分)では、研究調査等に基づいた研究計画や志望理由などについてのプレゼンテーション(前期課程約7分、後期課程約15分)を行います。

後期課程の場合は入学願書に希望する研究指導教員1名を明記する必要があります(前期課程の場合は入学後に決めます)。出願までに指導を希望する教員と連絡を取り、あらかじめ研究テーマなどについての相談をすませておくことが必要です。

課程	年次	推薦	一般		留学生		社会人		合計	
			志願	合格	志願	合格	志願	合格	志願	合格
博士前期課程	2008	8月期	34	22	9	6	2	1	45	29
	2月期	19	11	3	1	4	2	26	14	
博士後期課程	2009	推薦	-	-	-	-	-	-	8	7
	8月期	18	14	3	2	3	3	24	19	
博士前期課程	2009	2月期	7	5	2	1	2	2	11	8
	2008	8月期	2	2	-	-	4	4	6	6
博士後期課程	2008	2月期	1	0	2	2	8	6	11	8
	2009	8月期	7	6	-	-	3	3	10	9
博士後期課程	2009	2月期	1	1	-	-	5	5	6	6